

g 令和5年4月1日

学校にワクワクを！子どもたちを「本物の笑顔」に！

～「学級づくり」「学級の力」を土台とした、学びあいのある教育を通して～

佐世保市立広田小学校
校長 井上 文典

はじめに

令和5年度は学校にワクワクを取り戻し、さらなる「本物の笑顔」をめざします

マスク越しの笑顔の4年間、学校はこの逆境を家庭や地域と連携し、工夫しながら乗り越えてきました。新年度を迎え、通常の教育活動にもどれるという兆しを感じ、大変うれしく思っています。しかし、本来であれば、経験できたはずの様々な表現活動が制限されてしまったことも事実であり、失ったものもあります。

令和5年度は、まず、子どもたちが楽しく会話をし、歌を歌い、子どもらしく表現できる場を徐々に設け、行事や集会、学級活動等、特別活動を土台としてワクワクする学校生活を取り戻し、ポジティブな学校文化を形成していくことを表明し、新年度をスタートいたします。

子どもたちが学びの当事者としての意識を高めるためには、望ましい人間関係や協働的な風土、そして、伸びを共に喜び合う集団の醸成が不可欠だと考えています。「学級の力」とはまさにこのことであり、本年度は学級づくりをすべての教育活動の土台としていきます。そして、特活を柱としながら、身につけさせたい資質、能力を明確にして本校の教育活動をシンプルにマネジメントしていき、成果につなげていきます。

加速度的な変化への対応が迫られる今、心が揺れ、不安になります。だからこそ、今、一番大切なことは揺るがない土台を構築することだと考えます。私たちは学校教育の目的を再度確認し、人格を形成していくために大切なことを日々の教育活動の中でシンプルに思考し、結果につながる実践をしていきます。そして、本年度も本物の笑顔が輝く子どもたちを育てていきます。

1 「どうせ無理」ではなく「わかった」「できた」と喜ぶ子どもを育てます

子どもたちの心から「どうせ…」のつぶやきをなくしていきます

「主体的に」や「当事者意識」という言葉がよく聞かれます。その阻害要因は「無関心」と「どうせ…」というあきらめの習慣です。「どうせ…」とつぶやくことは、思考をそこで止めることです。個に応じた指導、支援とともに、適切な負荷に対しては粘り強く取り組ませ、達成感を味わわせていきましょう。「自分でできた」という喜びは自立心の大切な種です。そして、学力向上は自立のための大切な柱の一つです。子どもたちの「自分で考えた（思考）」「自分で決めた（判断力）」「自分でできた・わかった（知識・技能）」この感動のそばに教師としていられる喜びを大切にしていきます。

2 共通実践ができるしなやかで、強い教師集団「チーム広田」に！

共通実践事項は大切にしていきます 本年度も「本物のはきものそろえ」から！

(1) 生活規律における最優先の共通実践事項の「まず〇〇」は徹底し必ず成果をあげます

まず「はきものそろえ」を徹底します。この「まず…」が徹底できなければ「凡事徹底」はできません。チーム広田として徹底できたことを子どもたちと共に喜び合い、そして、子どもたちの心の居場所を、授業や学級の活動に広げていきます。

*ルール解釈を人によって変えることは、子どもたちや保護者を混乱させます。生活規律をはじめ共通実践事項として決まったことは共に建設的に実践していきましょう。

(2) 学習のインフラとしての「学習規律」「広田ベーシック」は粘り強く指導して定着させます

学習の準備、話し方、聞き方等の学習規律の定着は、学びの土台です。この学習規律の定着のために一番大切なことは、指導の工夫と評価の活用、そして家庭への継続的な啓発です。学習規律の定着が学力向上の鍵を握っています。

昨年度からの取り組んでいる「広田ベーシック」(はきものそろえ 返事・あいさつ 座学前の黙想)は教育的効果が明確に表出しているので実践を継続します。

3 学級づくり、学級のががすべての土台です

学級づくりはトライ&エラーでOK! 失敗や困難の学びから、個と集団が育ちます

(1) 学級目標、学年目標を生きて働く言葉にします。

学級目標は学級の行先表示板です。学級で一番大切な言葉であり、学級の物語のタイトルです。また、学級目標は、自己理解、他者理解、他者貢献など、子ども自身が自分の成長を確かめる物差しであり、学校生活に関わる指導と評価が客観的であるための軸の一つでもあります。

常に学級目標を意識した学級経営に努め、子どもたちの心に残る一年をつくっていきます。

(2) 安心して、自信をもって自己決定できる学級の風土をつくります

学力の要素に「判断力」があります。自分で判断し、自己決定する力を付けるために一番大切なことは、自らチャレンジし、判断や決定の間違いを経験することです。今、この経験が不足しています。

「間違っただけど、自分で決めることができた」という自己評価、他者評価を大切にしながら、優しく強い学級をつくっていきます。

(3) 「学級のが」の伸びを実感させながら学級をつくっていきます

子どもたちには学級のが(学級力)の伸びを実感させていきたいと考えます。そのための手立てとして、学級のがを可視化する手立てをとり、活用ししながら研究を深めていきます。そして、学級の実態や学年の発達段階に応じ、子ども自身が学級のがの課題に気づき、課題解決のための手立てをとり、子どもたちが主体的かつ自治的に解決できるのがが育つよう実践していきます。

(4) 人間関係形成からキャリア形成をしていきます

礼儀・マナー、話し方、聞き方などのソーシャルスキルは人間関係形成力の基礎です。普段の授業、学級活動の中で指導し、しっかり身につけさせます。そして、様々な汎用的な力を身につけながらキャリア教育の充実を図っていきます。

4 子どもの言葉、行動は身近な大人の「今」を写す鏡です

先生の笑顔は大切な手本です。「和」の手本は職員室です。

「本物の笑顔」は子どもたちだけでなく、我々教師にとっても大切にしたい言葉です。大人にも夢があります。教師としての自己実現があります。

教師の学ぶ姿は子どもたちにとって一番の手本です。年齢や経験、役割や立場に関係なく学び続ける教師でありたいと思います。また、教師間の相互理解、コミュニケーション、いわゆる教師の「和」は私たち教師にとってとても大切です。職員間の疎通を土台としながら、明るく温かい言葉で包まれる職場環境をつくっていきたいと思います。

教師の「本物の笑顔」は子どもたちの手本です。共に「本物の笑顔」を目指していきましょう。

結びに

校風そして「薫習」

広田小の子どもは、この学校の様々な風を感じて育ちます。校庭に可憐に咲き、頑張っている花を見て育ちます。あいさつをする大人に囲まれて、あいさつの「心」を知ります。はきものをそろえる人を見て、物事を整えることの大切さを知ります。広田小の教育文化はとても大切です。そして、これからも、それが校風となり「薫習」となっていきます。

令和5年度、新しいスタッフとともに新しい帆をはり、新しい風を受け出航できることを嬉しく思います。

「チーム広田」…子どもたちの未来の「本物の笑顔」のためにチャレンジします。